みんなの文芸

引間豊作選　投稿数20句

歳重ね花の手入れに癒やされし　三沢　石森　勝子

(評)　このように読まれた句には、年齢の如何に拘らず誰しもが、身につまされる要素を持ち合わせているはずだ。特に手入れをする花によって、今の環境をそれはそれとして享受しながら、人生をより楽しく生きようとする心が何ものにもかえがたい美しさを見せている。かつてを振り返ると、あれもこれも遠い彼方へ過ぎ去り、ふと口遊む小学唱歌、兎追いし彼の山の「ふるさと」に辿りつく。歳重ねの句、繰り返し音読すると人生のすべてを尽した人の来し方が、浮かんでくる。特に今月はどの句を読んでも楽しい。

カーナビに従きし甲斐路や夏の雲　三沢　新井　民子

葭切りや瀞の渡しは朝ぐもり　下田野　藤田　稔

病む友に老鶯の声届くやも　下田野沢　引間富美子

日盛りや読みて居睡り覚めて読む　下田野　中田　久恵

万緑を風に運ばせ鍬振う　皆野　新井　茂

雨降りにあたりの山も緑映ゆ　下田野沢　植木　豊子

伝説の山吹の里遊歩道　下日野沢　田端　マサ

子燕の翔たむと風を待ちにけり　三沢　新井　叶子

山里に作りし庭や菖蒲咲く　下田野　藤原　道男

牧場も牛とポーピーで人を呼ぶ　三沢　横田　龍雲

荒川の水嵩ましぬ走り梅雨　下日野沢　高山　ユウ

目覚めれば燕飛び交ふ空のあり　下日野沢　佐藤　清子

俳句・短歌を募集

作品には、ふりがなをつけ、住所・氏名を明記して企画課へお寄せください。

8日必着

1人1句、1首に限ります。

中田國太郎選　投稿数15首

無精卵必死に抱きし烏骨鶏赤ちゃんポスト何処吹く風か　皆野　新井　茂

(評)　親が子を思い、子が親を慕う心情は、古今東西、決して消し去ることのできない真実である。このような人間の命の絆を断ち切ろうとする赤ちゃんポストの出現は、平成の悲劇である。作者は、無精卵まで必死に抱きしめた烏骨鶏の姿に、人間が失いかけている真の親の愛を発見し、赤ちゃんポストなど「何処吹く風か」とアイロニーを込めて描写している。ミレーの絵に「生まれたての仔羊」というのがある。仔羊を抱いた少女の後を母羊が心配そうについて行く。僅かにあけた口から母の声が聞こえてくるようである。浅見作、結句の「刻を待つ皿」が良い。

いつもより小口に切つて孫達の好物多く刻を待つ皿　金崎　浅見富美子

つつがなく健やかなるを亡き母に感謝の合掌今日は母の日　皆野　新井　愛子

自分の身を粉ごなにして働きし今夢で会ふ亡母の笑顔に　皆野　塩田　千代

輝きし芍薬一夜の雨に泣き頭を垂れてわが腰のごと　金崎　山田　雅子

面影の変わらぬ恩師同窓の席に残せる重き言の葉　皆野　笠原三江子

大相撲少年期よりファンわれ立合火花に老の血躍る　皆野　金子善次郎

浸しおく唐黍の種そつと蒔く鳥獣の害多き畑に　三沢　真下　杏子

昇仙峡の滝つぼに落つ水音にさえずり消され幽かに聞こゆ　三沢　新井　叶子

信虎の正室持ちし懐剣に戦国の女の生きざまを見る　三沢　新井　民子

宝登山の麓に植えし八重桜ライトに照りて俯きて咲く　下田野　安井　光代

本山で先祖の供養写経して我の心は五月晴なり　三沢　横田　龍雲

遠方の高速路灯星のよに車のライト瞬いている　上日野沢　四方田利男